# 折に触れ　四字熟語

## NO.269　〚格物致知〛　かくぶつ　ちち

＜ 意味 ＞　物事の道理や本質を深く追求し理解して、知識や学問を深め得ること。『大学』から出た語で、大きく分けて二説ある。
宋の朱熹(しゅき)は出典を「知を致(いた)すは物に格(いた)るに在り」と読んで、自己の知識を最大に広めるには、それぞれの客観的な事物に即してその道理を極めることが先決であると解釈する。
一方、明の王守仁(おうしゅじん)（王陽明）は「知を致すは物を格(ただ)すに在り」と読んで、生まれつき備わっている良知を明らかにして、天理を悟ることが、すなわち自己の意思が発現した日常の万事の善悪を正すことであると解釈している。他にも諸説ある。

＜ 出典 ＞　『大学』「知を致すは物に格(いた)るに（ものを格(ただ)すに）在り」

表　　言 ：　格物致知の道をきわめる

用　　例 ：　古人の誠意を以て徳行の本となし、 格物致知以て選択の力を極めて、 事理当然の地に止まらんと欲する。＜伊沢修二・教育学＞

一　　言 ：　９月４日付けの朝日新聞に、侍ジャパンの前監督栗山英樹氏が表紙になった月刊誌「致知」の広告が載っていました。「致知」は恐らくこの熟語「格物致知」から取ったものなのでしょう。なかなか難解な言葉です。

参照文献 ：　岩波書店「四字熟語辞典」

５・10・１　舛本　純